様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ５ 月 ２５ 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ２０８８１

研究課題名（和文）ポストソ連期南コーカサスにおける支配政党の比較研究

研究課題名（英文）Comparative Analysis of Dominant parties in Post-Soviet Caucasian Republics

研究代表者
立花　優（TACHIBANA, Yu）

北海道大学・文学研究院・共同研究員

研究者番号：２０７３３３３０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は支配政党の形成とその維持における結果の分岐を、コーカサス三国を対象として比較することを目的とした。研究の結果、グルジアにおいては旧支配政党が徐々に集権化傾向を強めた一方、現与党はその成立において地方有力者の取り込みに力を入れていたこと、アルメニアでは支配政党の行政府への融合が進んでいった一方で、選挙制度改革議論の中で小選挙区選出議員に対する配慮が行われていたこと、アゼルバイジャンでは世襲の成功後支配政党の制度化が進む傾向がみられることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は支配政党を軸としてコーカサス三国の政治を比較分析する日本で初めての研究である。世界的に見ても、先行研究においてコーカサス三国は旧ソ連諸国としてロシア・ウクライナや中央アジア諸国と個別に比較されることが多く、地理的・歴史的条件が近似している三国を対象に、変数をそろえて近接比較を行うものは稀であった。また、本研究課題では三国それぞれで現地調査を実施しており、そこで得られた人的つながりや知見は今後の研究の発展にも資するものである。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research project was to compare the difference between Post-Soviet Caucasian republics in the point of the formation and maintenance of dominant parties. In this research, I pointed out three findings in each country; first, in Georgia, the current government party Georgian Dream made an effort to take on the local elite as a partner. Second, RPA, the dominant party in Armenia had trouble in communication within the party because of the leadership of the dominant party was absorbed into the governmental body in Armenia. At the same time, RPA leadership gave care to the deputies from constituencies in the dispute on electoral reform. Third, in Azerbaijan, elites enjoyed some autonomy in the regime in pre-presidential dynastic succession. After presidential succession in 2003, however, the dominant party in Azerbaijan YAP step into the institutionalization of party management.

研究分野：地域研究

キーワード：支配政党　権威主義体制

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究課題代表者は、本課題開始まで、ポストソ連地域に出現した権威主義体制の事例として旧ソ連邦の構成共和国の一つであったアゼルバイジャンを分析の対象とし、研究に取り組んできた。それまでのアゼルバイジャン政治研究においては、同国の権威主義体制の成立と体制維持において説明要因として大統領のパーソナリティーが重視されてきた。これに対し、本研究課題代表者の研究においては、リート間で様々な利害の対立があり、その調整と統制を支配政党が果たしていること、権威主義体制にとって最大の危機となる世代交代を、支配政党を中心に乗り切ったことを指摘し、支配政党の形成と、それによる議会の統制確保が、ポストソ連期アゼルバイジャンの権威主義体制の安定に重要な役割を果たしたことを論じてきた。

そこで、支配政党の形成と、それによる議会統制の在り方の違いが、ポストソ連地域における権威主義体制の命運に差異をもたらしているのではないかと考え、支配政党の強度を指標に、アゼルバイジャン・グルジア・アルメニアの南コーカサス三国を近接比較することを課題とした。

２．研究の目的

旧ソ連諸国において 2000 年前後から見られた、強権的な大統領と支配政党の形成によって政治体制の安定化を図るという兆候は、少なくない研究者に注目されていた。大串（2013）はロシアとウクライナの支配政党形成における結果の分岐・およびロシアにおける支配政党の動揺を、地方知事任命政策の違いと変化によって説明した。本研究課題は、上記の先行研究を出発点として、コーカサス諸国の結果の分岐を説明する新たな仮説を立て、それを検証することを目的とした。

本研究を行うにあたって、まず具体的な分析対象を定義した。本研究においては、１）支配政党を「政府中枢の指導下にあり、2 回以上の議会選挙で勝利・多数派を確保した大統領与党」とした。そして、２）支配政党の維持という状態を、支配政党にとって最も重要な目的の一つである体制内での大統領の交代に成功したかどうかで定義した。ポストソ連期のコーカサス三国の与党をこの 2 つの定義に当てはまるか否かで分類すると、2 つの定義に当てはまるアゼルバイジャンの新アゼルバイジャン党（YAP）とアルメニアのアルメニア共和党（RPA）、1 つ目の定義のみ当てはまるグルジアのグルジア市民同盟（CUG）、統一国民運動（UNM）、アルメニアのアルメニア全国民運動（PANM）、という 2 つのグループに分けられる。この分類を行ったうえで、帆年休課題の具体的な問いとして、「コーカサス三国が支配政党の形成という点で共通した結果を見せたものの、体制内での大統領交代（支配政党の維持）の成否において結果が分岐したのはなぜか」を設定した。

本研究はこの問いに対し、「１）地方制度の集権的性格の強弱、２）議会の選挙制度・支配政党における公認候補選定プロセスなどの支配政党と議会・議員との関係性、の 2 要因に規定される地方エリートの一定の自律性の有無が、支配政党の形成と維持に影響する」という仮説を立てた。

＜文献＞

大串敦（2013）「支配政党の構築の限界と失敗：ロシアとウクライナ」『アジア経済』第 54 巻第 4 号、pp. 146-167.

３．研究の方法

本研究を計画した際に立てた仮説「１）地方制度の集権的性格の強弱、２）議会の選挙制度・支配政党における公認候補選定プロセスなどの支配政党と議会・議員との関係性、の 2 要因に規定される地方エリートの一定の自律性の有無が、支配政党の形成と維持に影響する」のうち、１）の部分は上記「2. 研究の目的」で紹介した大串（2013）でも触れられている要因であり、本研究の特徴は 2 つ目の要因「議会の選挙制度・支配政党における公認候補選定プロセスなどの支配政党と議会・議員との関係性」にある。そこで本研究は、コーカサス三国の支配政党そのものの調査に加えて、コーカサス三国の議会制度・議会選挙制度の変遷を整理することが軸となった。さらに、上記仮説の 1 つ目の要因である地方制度についても、他の旧ソ連諸国に比較して研究が遅れていたため、基礎的な情報の整理を目標とした。

必要な情報の収集方法として、本研究課題では現地調査を重視した。これは、本課題代表者がこれまで一国の事例を主たる研究対象としていたことから生じるバイアスを補正する意味を持つとともに、将来的なコーカサス研究の発展を図るための下地作りとしたいという狙いがあった。しかし、コーカサス三国における現地調査は、現地における政治情勢の変化による突然の政権交代や調査対象となる政党の分裂などにより、計画通りには進まなかった。

４．研究成果

本研究課題の成果として、大きく 3 点が挙げられる。

1 点目は、グルジアの支配政党のうち、UNM についてその性格と政党の強度について考察し

た。UNM は 2003 年に起きた「バラ革命」で主要な役割を果たした人々によって結成され、新たな政権与党となったが、政権が権威主義的性格を強めるに従い UNM も個人支配的な様相を帯びるようになった。この UNM 政権に選挙で勝利し、政権交代を実現した現与党「グルジアの夢」は、議会選挙の候補者選定で集票力のある候補を公認選定の基準にしており、この結果小選挙区選出議員が一定の影響力を持つことになった。この点について、日本中央アジア学会において研究報告を行った。

2 点目は、アルメニアにおける支配政党の成功例である RPA についてである。アルメニアは本研究課題採択期間中に政権が大統領制から議院内閣制への移行とそれによる政権維持を試みたものの、結果的に失敗して政変が起き、政権が交代した。このため現地調査計画を大幅に見直すこととなった。政変後に実施した調査の結果、共和党が政権長期化に伴って行政府との融合が進んだ結果、党組織内部の意思疎通が難しくなっていたこと、一方で、議院内閣制への移行とセットで議論されていた議会選挙制度について、表面上は比例代表制への変更が行われたものの、実態は複雑なルールによって事実上小選挙区と大差ない仕組みになっており、地方エリートへの配慮がなされた可能性があることがわかった。この内容はロシア・東欧学会において研究報告としてまとめた。

3 点目は大統領職の世襲を経て今も政権を維持し続けているアゼルバイジャンについて、本課題代表者のこれまでの研究をベースとしつつ、近年見られる兆候を整理した。支配政党内での異論を抑えて大統領の交代というミッションを世襲という選択肢でクリアしたアゼルバイジャンは、世襲に対するハードルが下がっており、次の世襲が取りざたされるようになっている。また、先の世襲以降は支配政党の制度化・集権化の動きもみられるようになっている。上記の点について、世襲をテーマとした日本比較政治学会のセッションで研究報告を行った。

研究対象地域における政治変動や研究対象となる政党の分裂といった現地情勢の変化、および本研究課題採択と同時に大学職員としての採用が決まったことで、当初予定していた研究計画に再考が必要となり、仮説の検証を十分に行うには至らなかったが、新たに発生した状況を加味しつつ本研究課題で得られた具体的な成果をもとに今後も仮説の検証を進めたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 立花　優	４．巻 －
２．論文標題 ジョージア議会選挙	５．発行年 2017年
３．雑誌名 デジタル・イミダス	６．最初と最後の頁 －
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 立花　優	４．巻 －
２．論文標題 アゼルバイジャン憲法改正国民投票	５．発行年 2017年
３．雑誌名 デジタル・イミダス	６．最初と最後の頁 －
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 立花　優
２．発表標題 アゼルバイジャンにおける世襲による権力継承
３．学会等名 日本比較政治学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 立花　優
２．発表標題 議院内閣制への移行による権威主義体制維持の失敗　：ポストソ連期アルメニアの事例
３．学会等名 ロシア・東欧学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yu TACHIBANA
２．発表標題 As the heir of ADR: The lesson from ADR experience and 27 years of the Republic of Azerbaijan
３．学会等名 Azerbaycan Cumhuriyyeti - 100: Muselman Sherqinde ilk Parlamentli Respublika’ Beynalxalq Elmi Konfransi, Baku（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 立花　優
２．発表標題 ポストソ連期グルジアにおける政党の意味：下野後の統一国民運動UNMの検討を中心に
３．学会等名 日本中央アジア学会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考